

必

書館の

としよか

Mevius

淫獣

いんじゆう

カサ

カサッ

あの時  
私が不用意に魔導書を  
開きさえしなければ

魔導書から  
召喚された怪物に  
魅了されなければ

この「男」が復活することは  
なかったはずなのに…

れる

シャーロット ごめんなさい  
あなたまで巻き込むなんて…

やはり人間の女の涙の味は別格だ

血液はどうも雑味が多くて好まん

焦るな すぐにお前の涙も  
頂かせてもらおうさ

ハハハ

メインディッシュは  
最後まで取っておくものだ

私たちはこの「吸血鬼」に  
飼われ続けるんだろう

五百年もの間  
封印された身体の渴き

お前たちの涙で  
満たさせてもらおうか…

永遠に涙を流し続ける  
「道具」として…

うう…

おっ  
おっ  
♡

おっ  
おっ  
♡

はぁ  
♡

くちゅ

くちゅ

くちゅ♡

おっ  
おっ  
♡

おっ  
おっ  
♡

埃を被っていたこれが  
ずっと開かずの間だった  
扉の鍵だったなんて

私の名前はフロイライン  
人里から少し離れたある洋館の主

古びた膨大の本には数多の歴史や  
忘れ去られた魔術が多く残されている  
ここで司書として管理人をしています

こんなところにやって  
来るのは歴史の研究者か  
世捨て人のような探究者

それと行商人の子が  
時々会いにやってくるくらい

あれは…

カッソッ

カッソッ

カッ

カッソッ

カッソッ…

カッソッ

魔道書……？

本にも鍵がかかっている……

扉の鍵では開かない……

うーん  
気にはなるけど……

……オーフェン

オーフェン？

えっ？

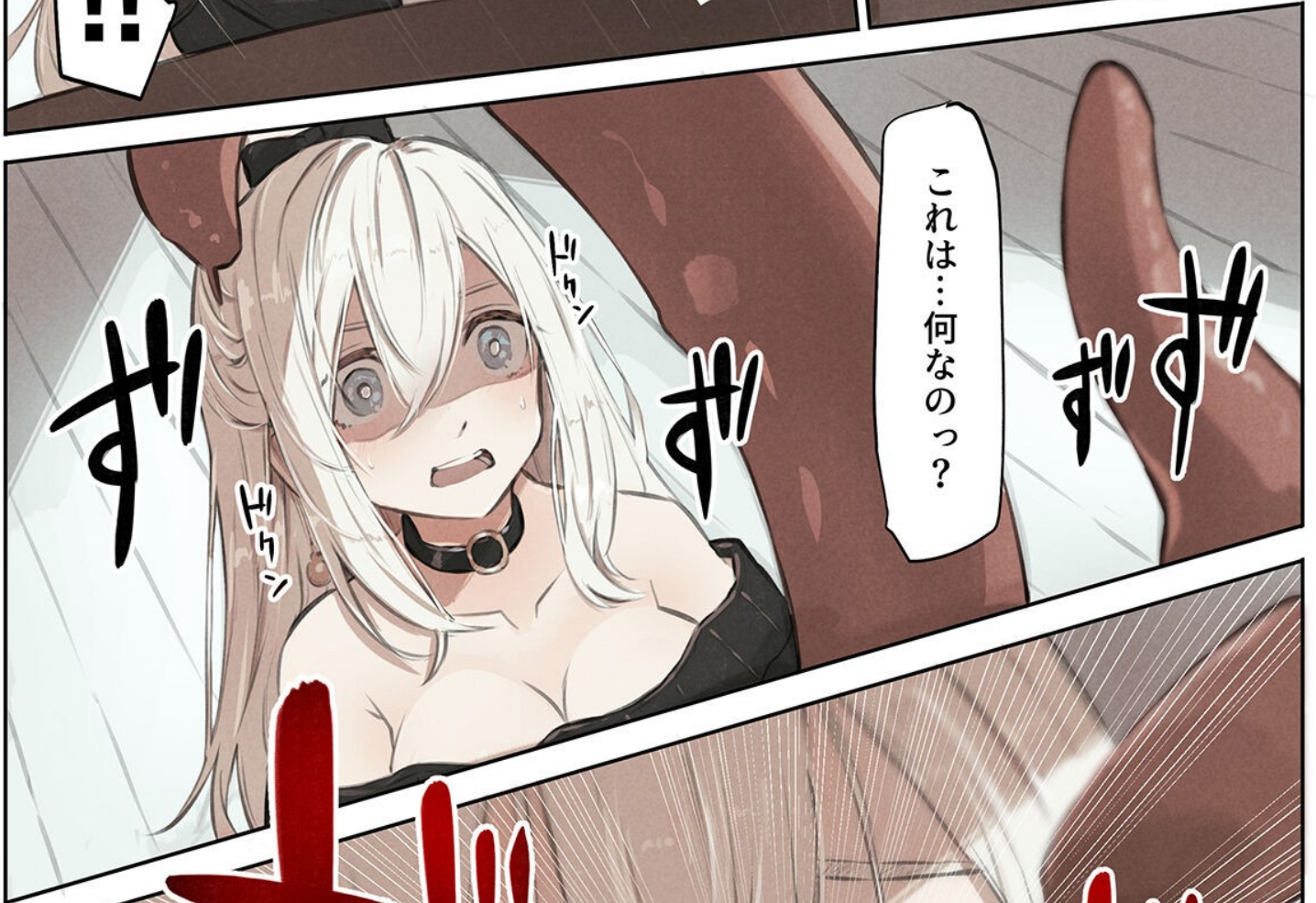
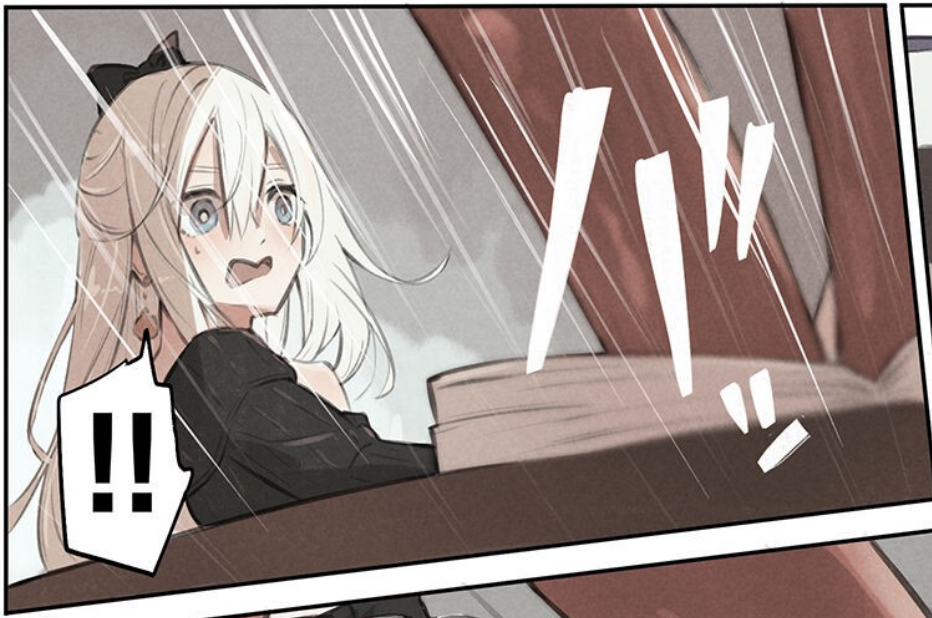
鍵が

開いた……？

それに今の声は  
一体どこから……

カチッ

すっ



逃げなきゃ!

ドクン!

ドクン!

おおお

おおお

おおお

あああ...

はあ

はあ

はあ

タタ

あっ

ごやっ

カ

タタ

タタ

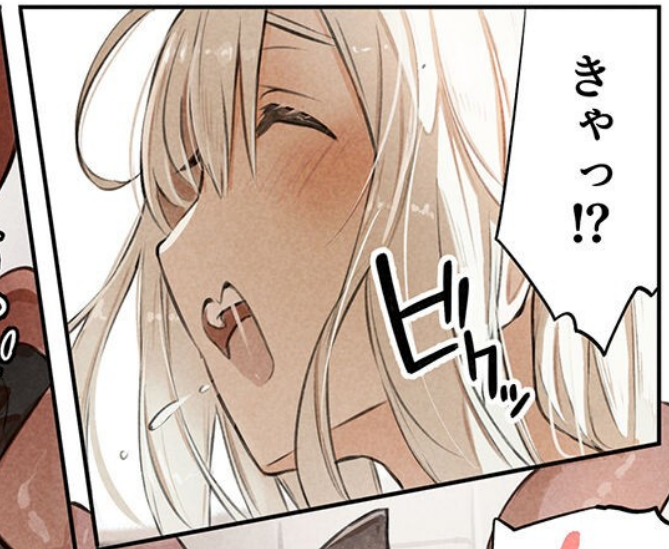
お

離して!!

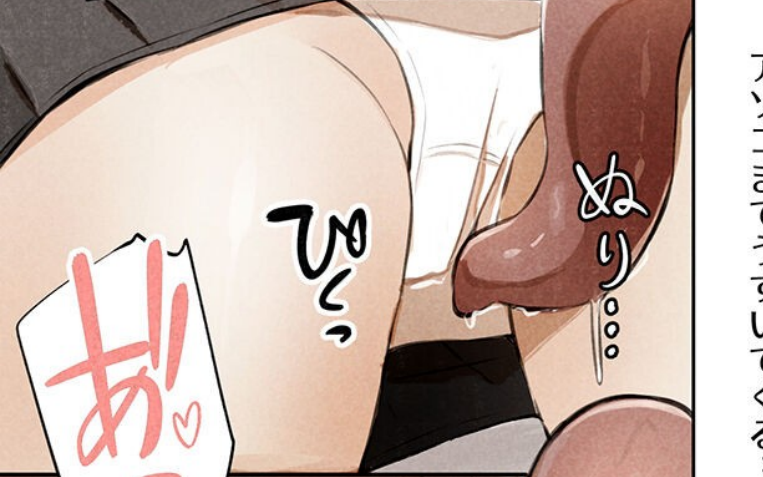




乳首吸わないでえ!



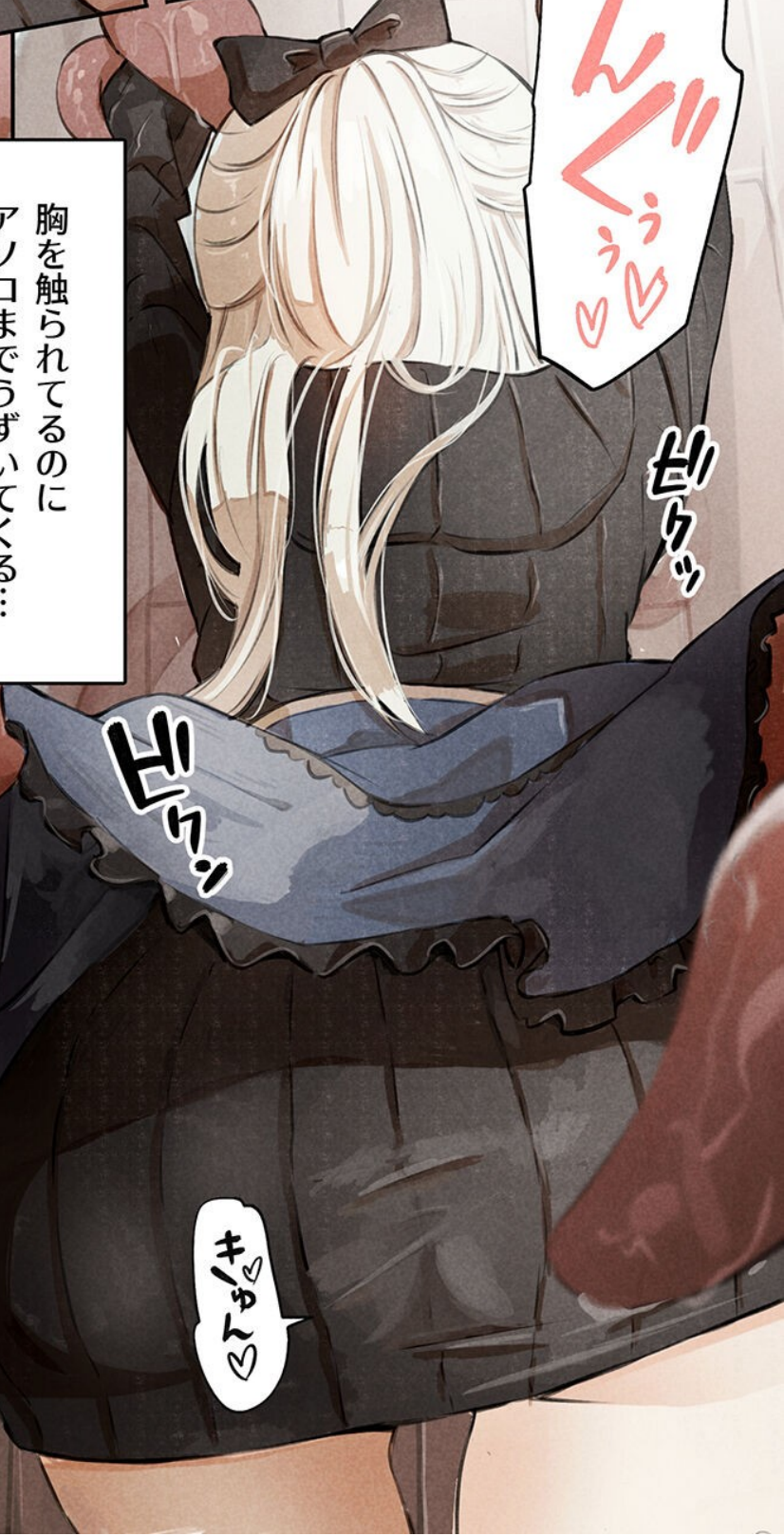
きゃっ!!?



胸を触られてるのに  
アソコまでうずいてくる...

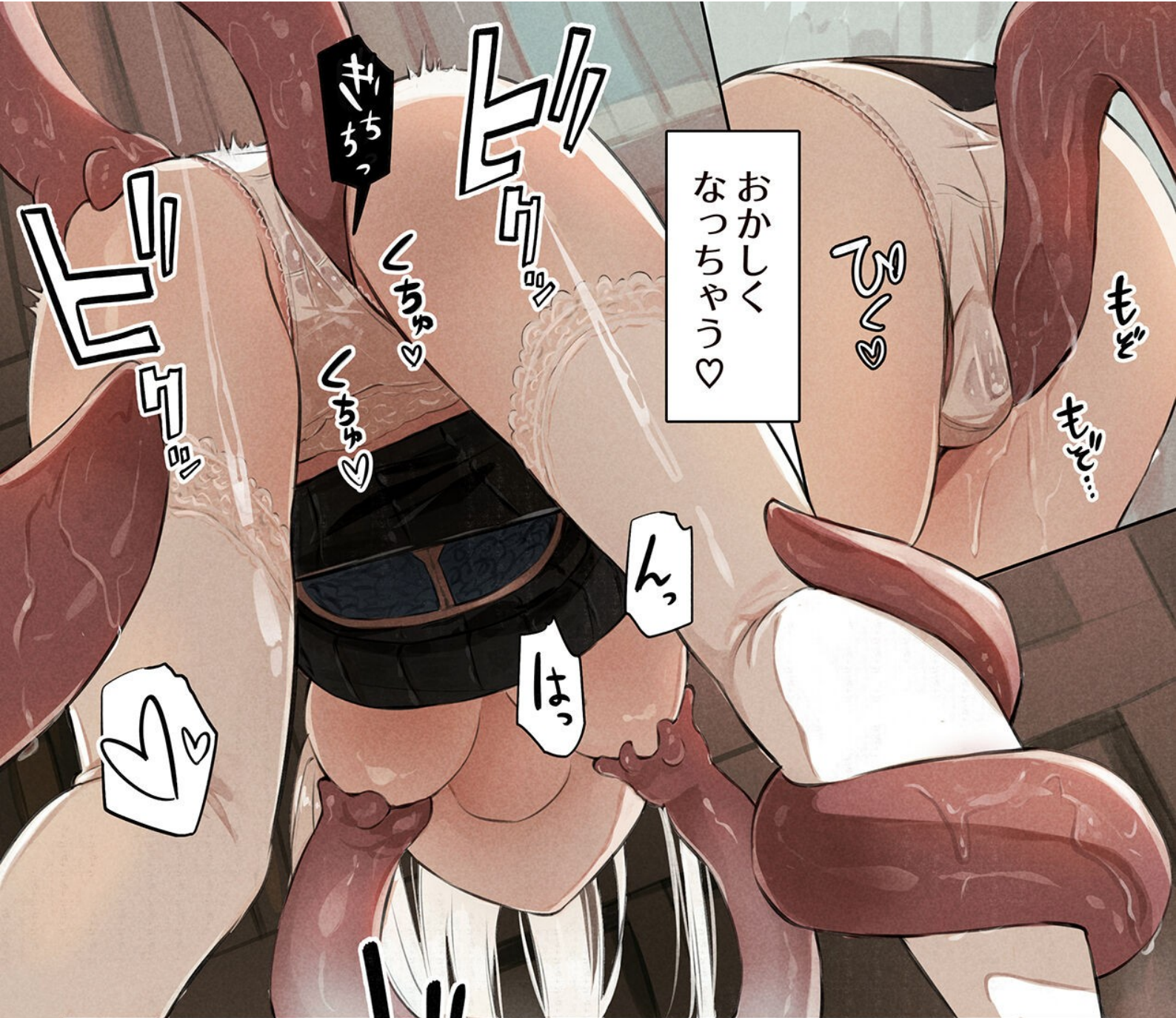


今そこを弄られたら...



んぐ

きゃっ



おかしく  
なっちゃう♡

もど

もど...

♡♡♡

ん

は

♡♡♡  
♡♡♡

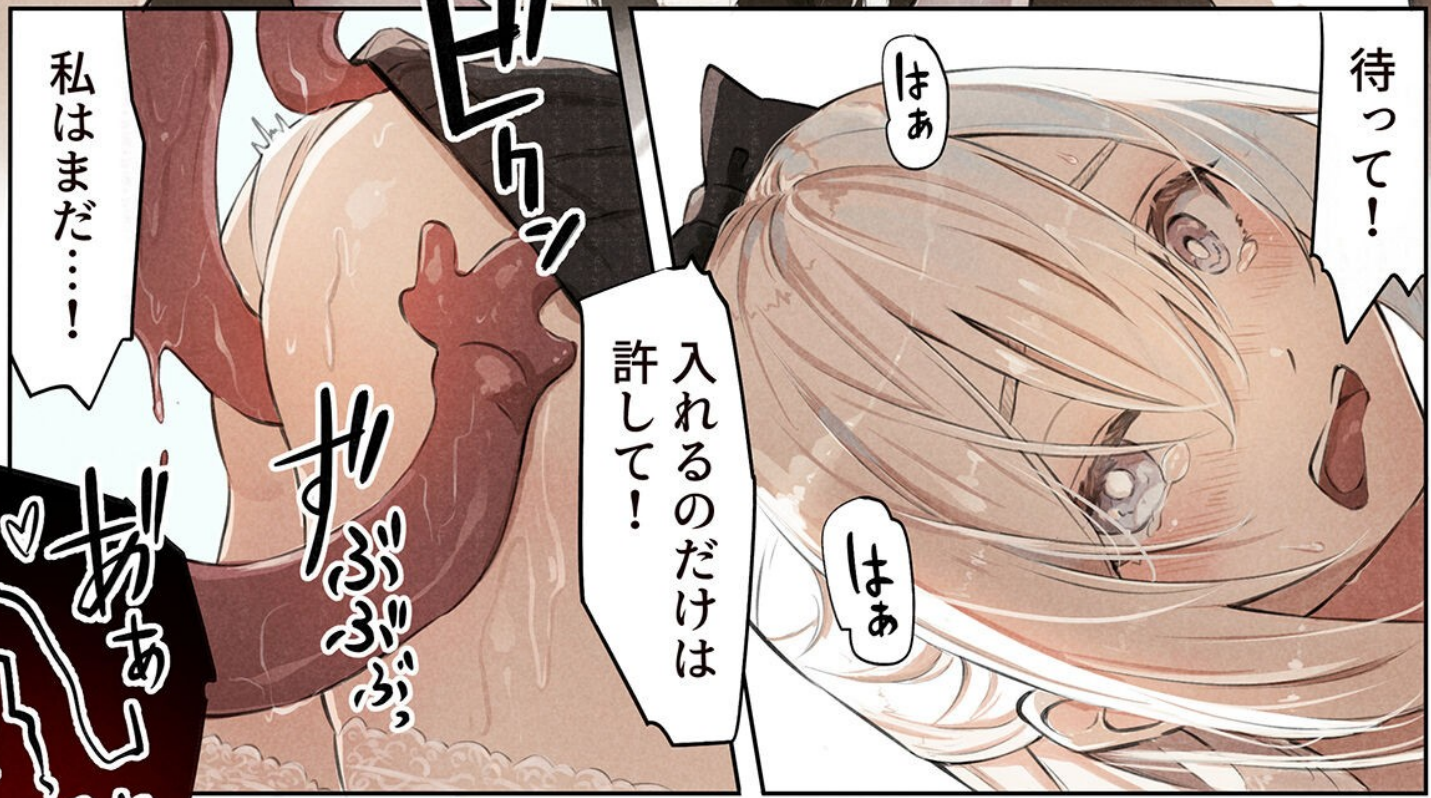
♡♡♡  
♡♡♡

ト  
ト  
ト  
ト  
ト

♡♡♡  
♡♡♡

ト  
ト  
ト  
ト  
ト

♡♡♡



待って!

はあ

はあ

入れるのだけは  
許して!

ト  
ト  
ト  
ト  
ト

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

私はまだ...!

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

何なの この感覚

まるで「誰か」に  
犯されているような錯覚が

こんなの  
嫌なはずなのに

ぐっ  
じゅわん  
じゅわん

じゅわん...

じゅわん  
じゅわん

じゅわん

どうして  
こんなに  
気持ちいいの♡

じゅわん  
じゅわん...

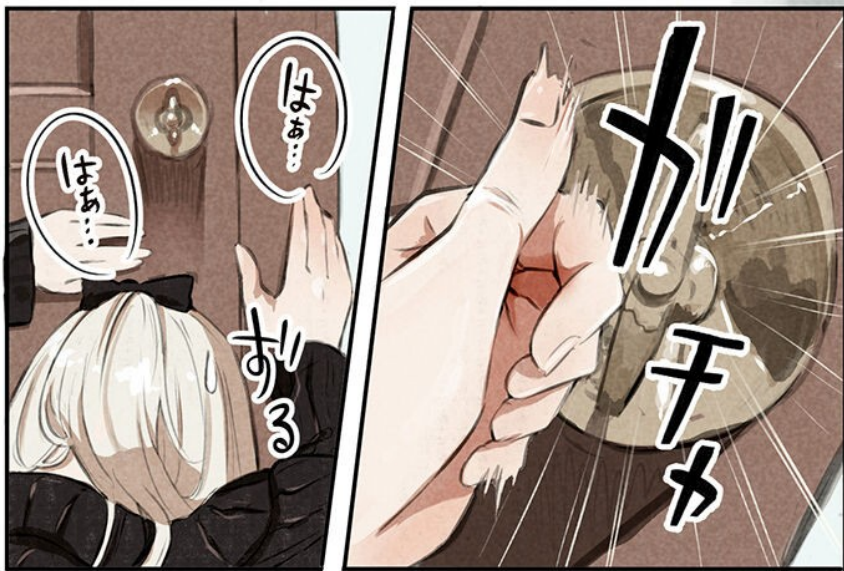
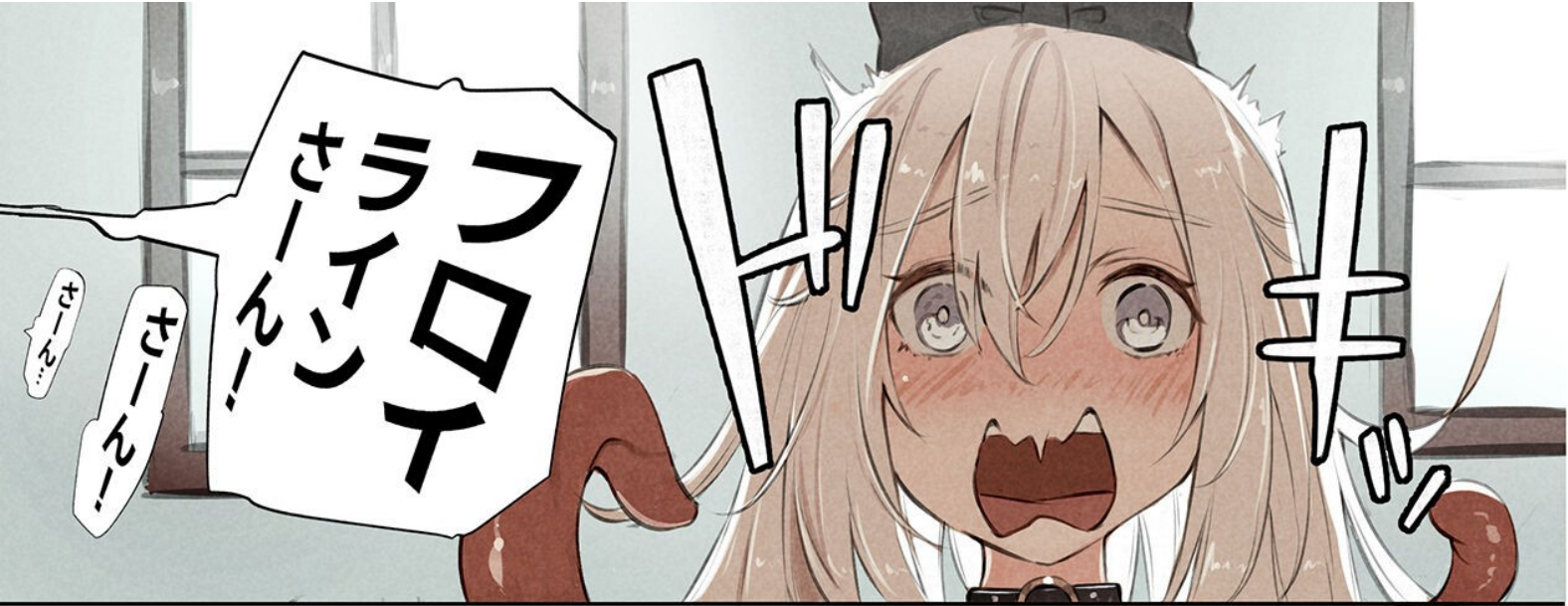
あの日  
初めて触手と  
交わってから

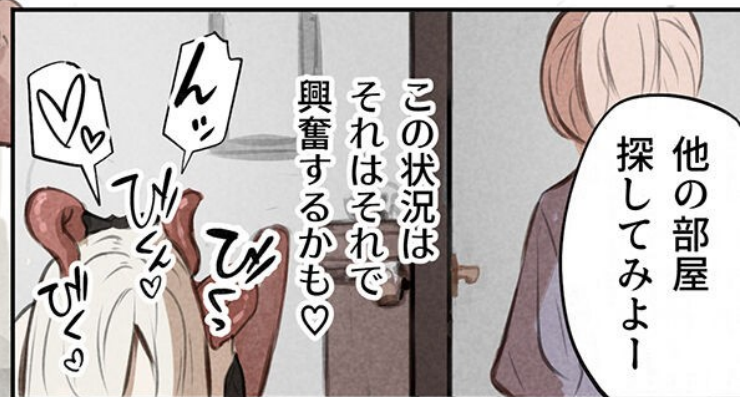
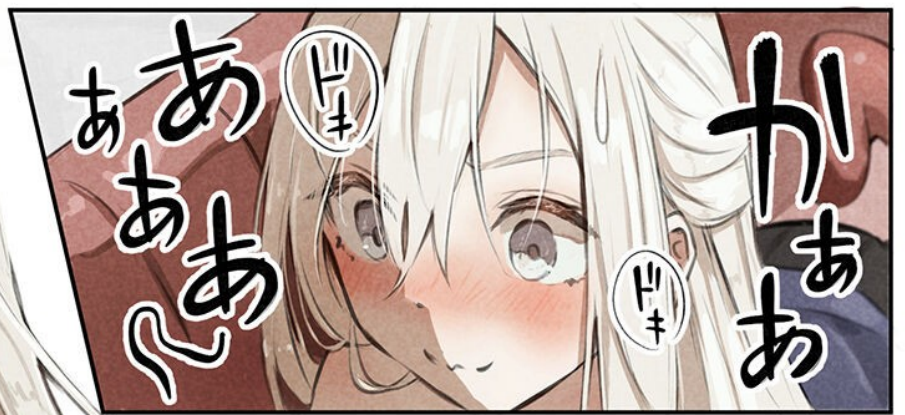
未知の快感を  
忘れることが  
できなくなつて  
しまいました

この本について  
ひとつわかったことは

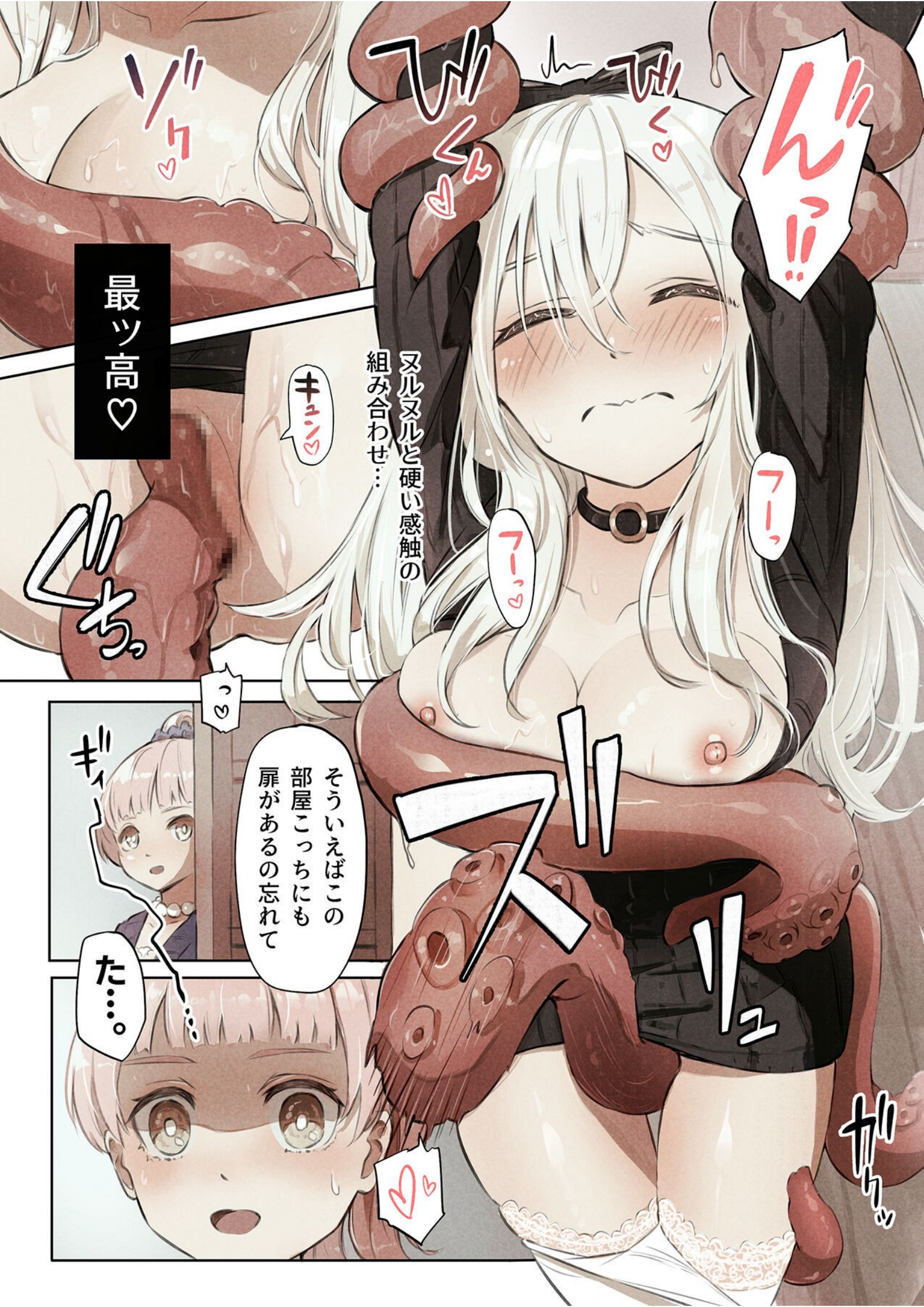
この子は  
タコみたいに  
吸盤がついてるのね♡

ページによって  
召喚される触手が  
違うということ





こんなことで楽しんでるなんて 誰にも見せられないわ...



最ツ高♡

ヌルヌルと硬い感触の  
組み合わせ…

キミン♡

ちゅ



そういうえばこの  
部屋こっちにも  
扉があるの忘れて

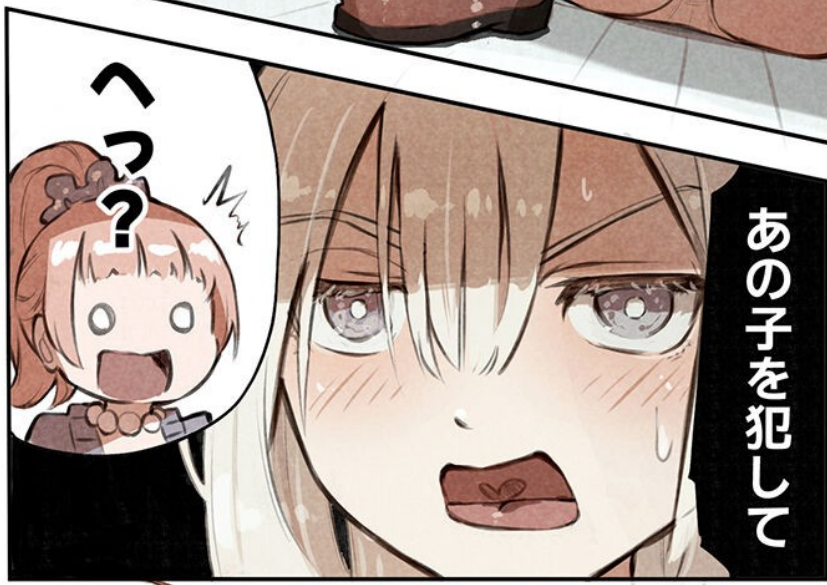


た…。





フロイラインさん  
一体全体どんな状況...?



あの子を犯して



きゃん!?

なんて都合よく  
いくわけないわよね...

どうせ言い訳なんてできないし  
シャーロットも触手の  
虜にしてしまえば



人は危機を感じた時、生存本能により  
光の速さで思考が脳を駆け巡る

瞬時に数多の思考が  
波のように浮かんで消えた  
末に彼女が下した判断は—

$$y = \frac{f_m}{f_u} \sin \theta$$
$$\int_{x_a}^{x_b} f(x) dx$$
$$= \sqrt{2}$$
$$d/d^x f(t) dt$$
$$f(x)$$

フロイラインさん!  
これはどういふことなの!?

はあ

ハッ

はっ

ハッ

助けて  
フロイラインさん!

ぬるぬるが全身に  
絡みついて離れないよ!

ちゅぽぽぽ

びん

いっしょ

ひゅん

びん

ぽん

もろもろ

ぬりゃ

シャーロット 大丈夫よ

…あれ?



「この子」に可愛がってもらおうとね  
とっても気持ちよくなれるの

それに嘘みたい不思議と  
活力が湧いてくるわ

フロイライン…さん？

するる

もうっ！

やっぱりなにか  
様子がおかしい…！

キ

離してよ——！！

あっだめー！！

ちょっと  
そこは…

するる

ひびく

もぞもぞ

ふに

ひびく



らめ〜♡

もぞもぞ

ほあ

びん

あん♡  
あ♡  
あ♡

びん

あ♡

あ♡

あれ…  
シャーロットの様子が

だんだん色っぽい  
声になる

しゅわ♡



やめ…てえ  
何か出ちゃ…う!

あ♡

あ♡

かわいい♡

びん

だめ

あ♡

あ♡

はあ  
はあ



あ♡

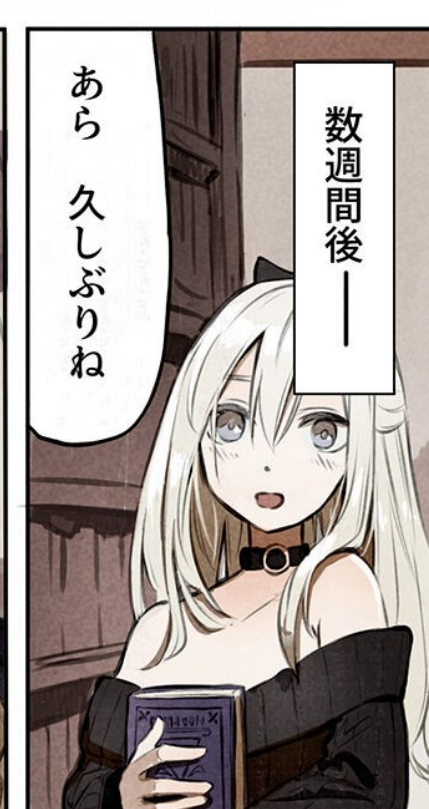
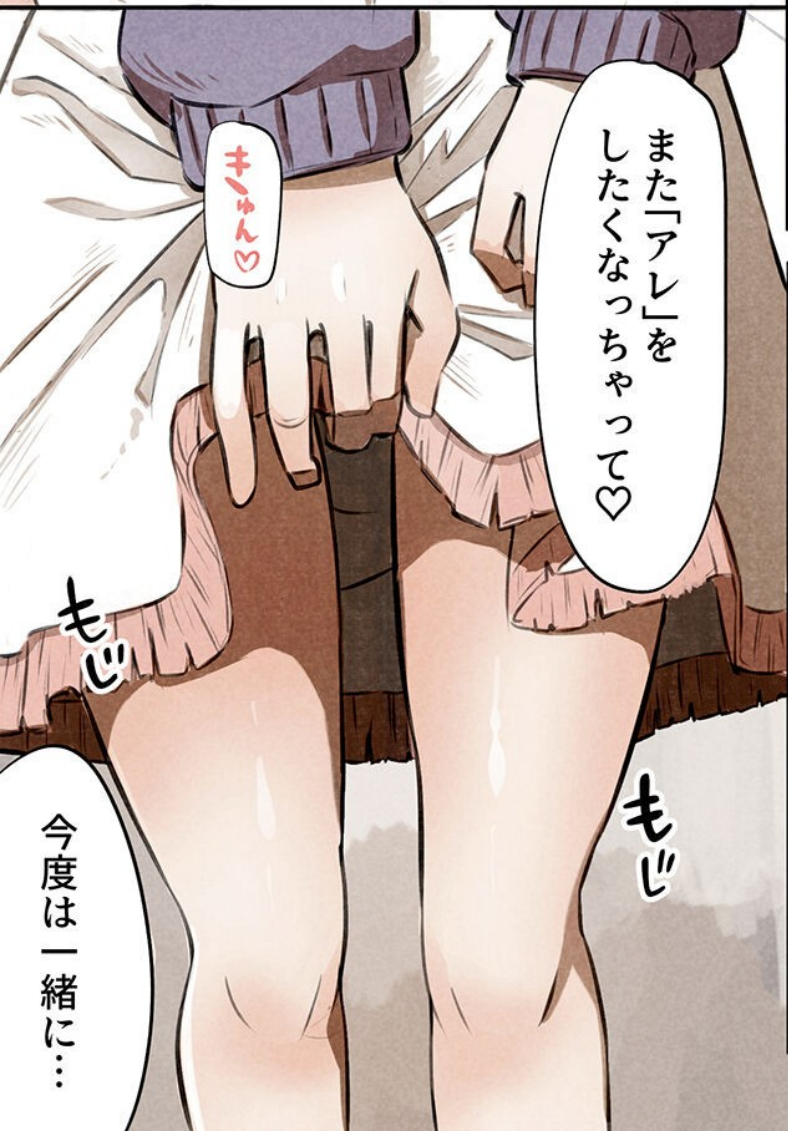
あ♡  
あ♡  
あ♡

あ♡

あ♡  
あ♡

する

する



今度是一緒に...

あの触手の正体が果たしてなんなのか  
気にならないわけではありません

害を与えてくることはないけど  
なぜ あんな場所に魔導書とともに  
封じられていたのか…

それにはきつと「理由」があるはず

### 第三章 違和感



うーん ダメね

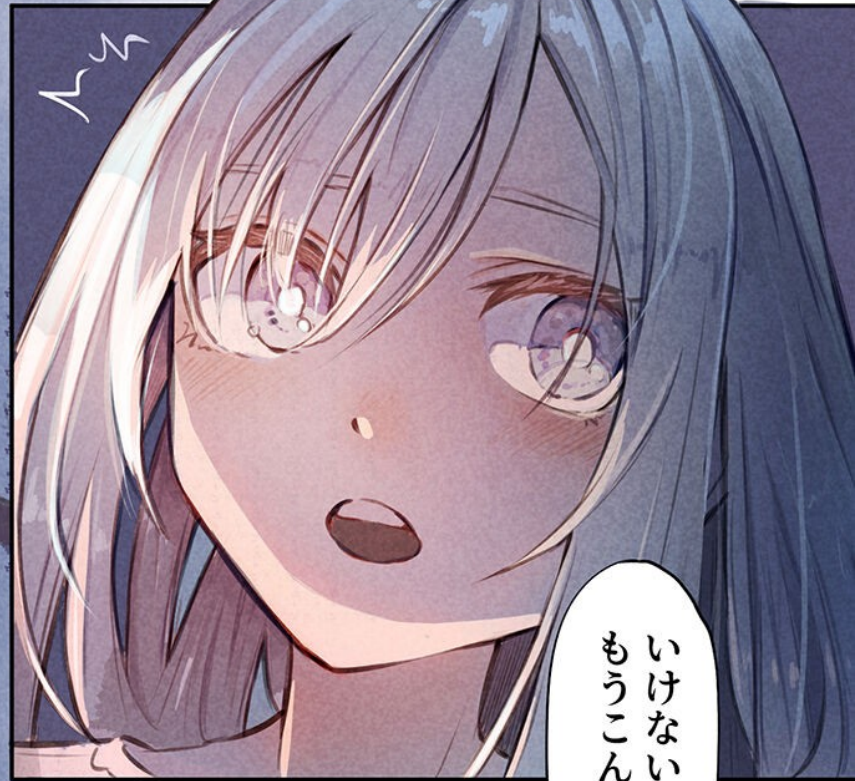
魔物に関わる本を  
探してみただけどさっぱり

今日はハイキまで

いけない  
もうこんな時間

また明日  
時間がある時調べよう

ブト



害を与えてこない  
そのように思ってしまったている  
自分はおかしいのかもしれない

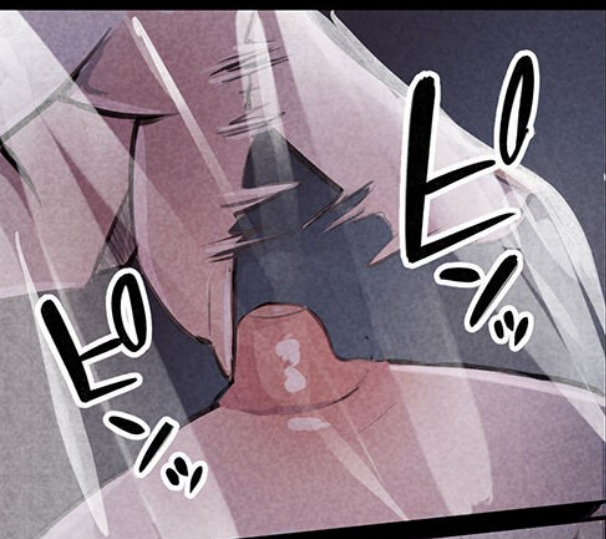
得体の知れない存在に  
体を許しているのだから

ぞ  
ぞ

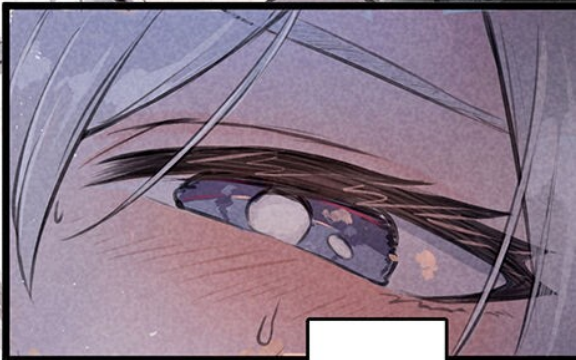
ぐ  
ぐ

す  
す

は  
は



誰かが体を  
触っているような感触…

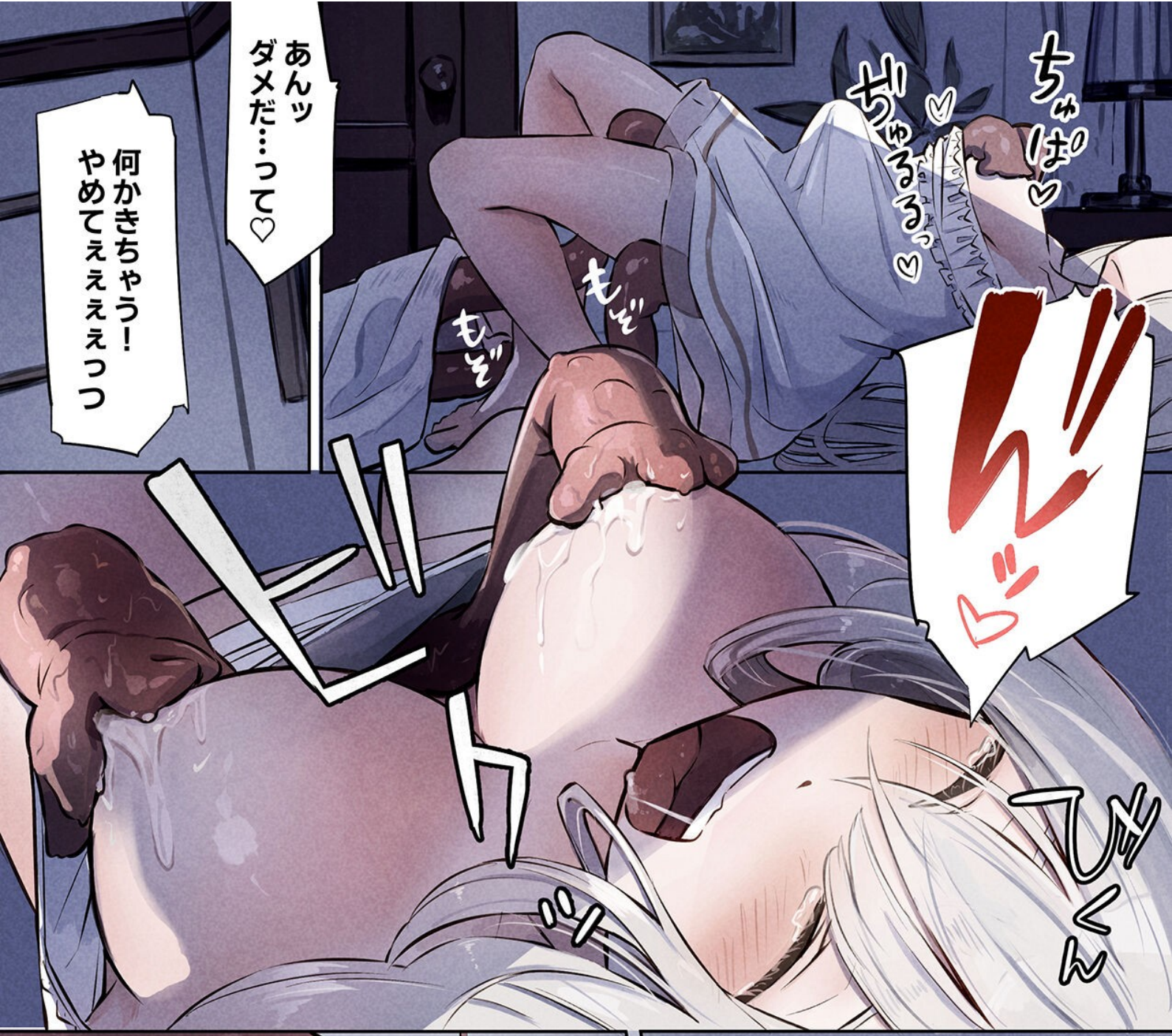


瞼が重い  
体が動かせない…

また あの時の男の幻影？







ちゅっほ♡

ちゅるる♡

もぞ

もぞ

ん♡

ん♡

あんツ  
ダメだ…って♡

何かきちゃう！  
やめてええええっつ



ちが  
ちが…

ん♡

わたし…逝っちゃった…

ぶるん♡

キゅっ♡

アソコが繋がって  
電気が走るみたい♡







おちおち

おちおち

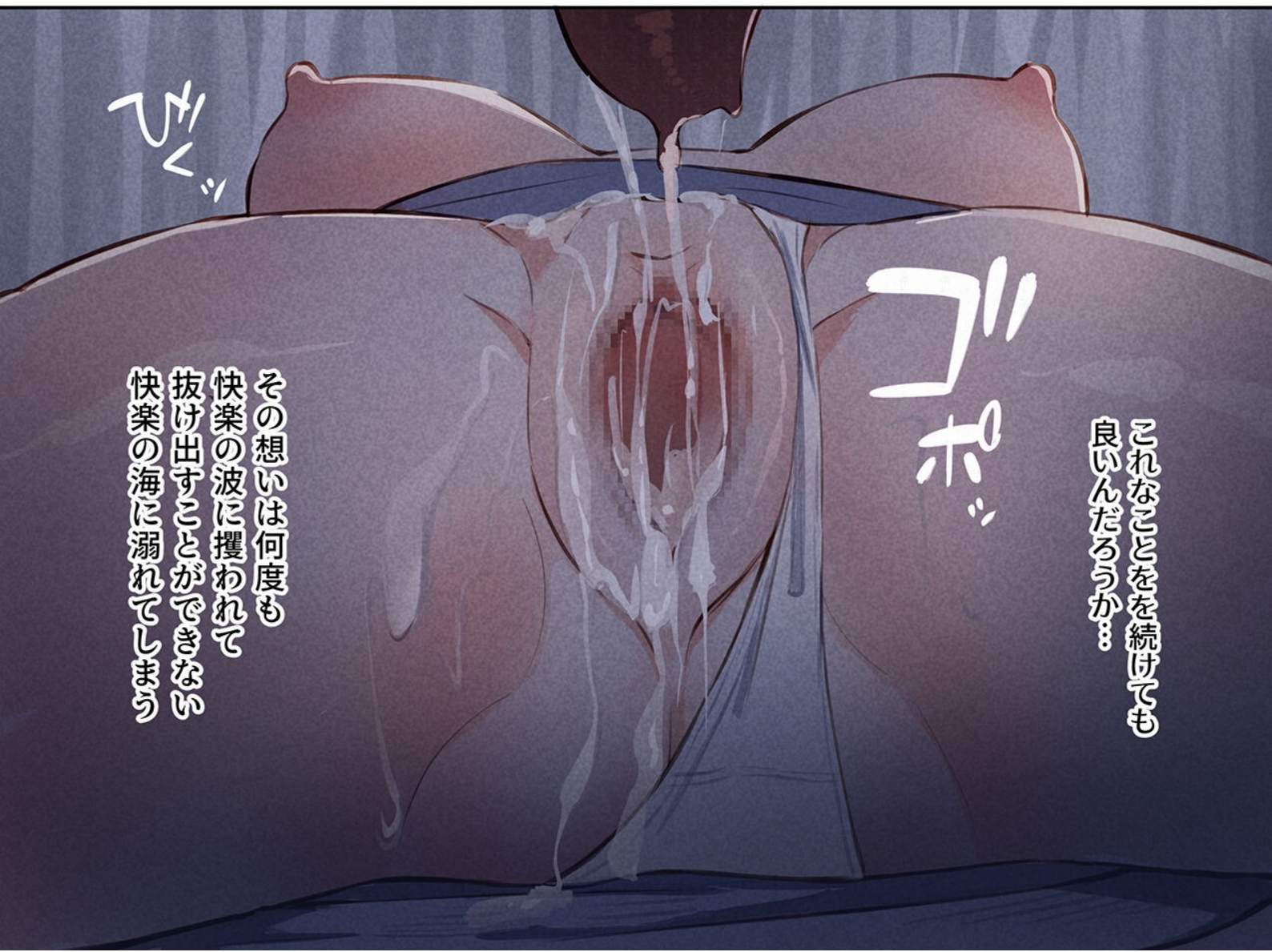
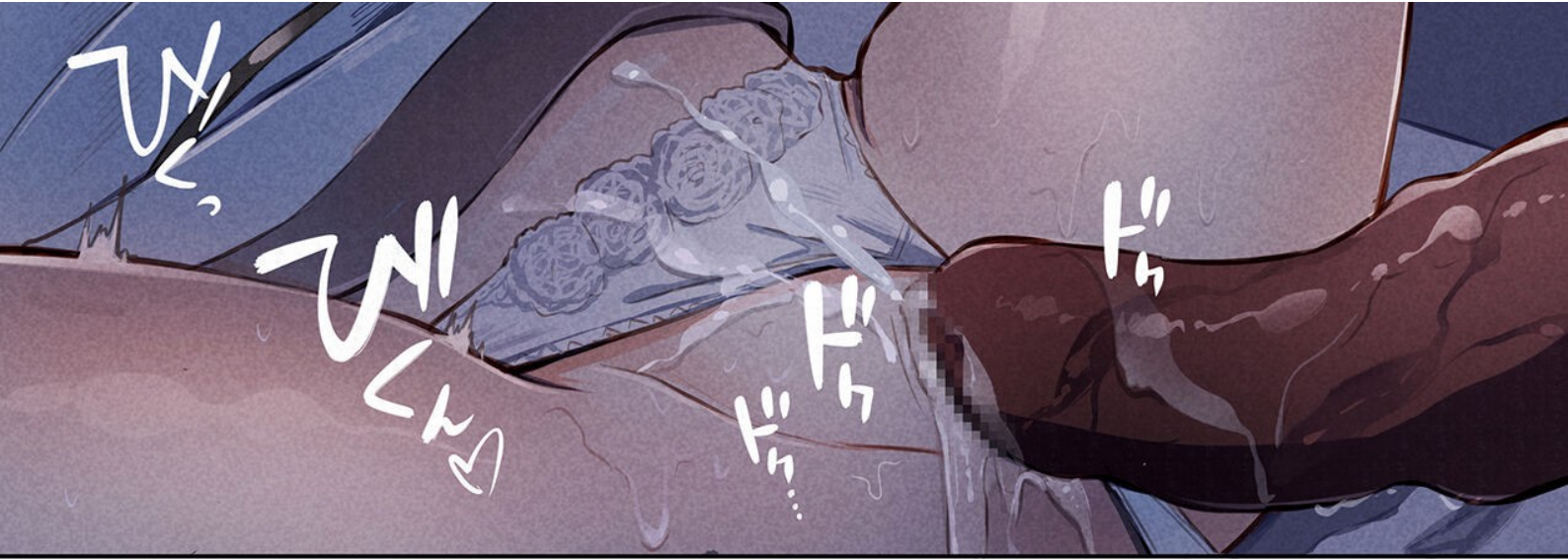
おちおち  
おちおち

おちおち  
おちおち

おちおち  
おちおち

おちおち  
おちおち

おちおち  
おちおち



えっ！

あの本  
捨てちゃうの!?

すいっ

ええ  
(近いわね...)

やっぱりね  
危険だと思うの

じゃあ最後の記念に一回だけ！

フロイラインさんも  
好きでしょ？

何かあったら  
わたしたちの手に  
追えなさそうなものって

お願い！

なんの記念よ

なんだかんだで  
好きなんだから♪

る

ん♪

はあ

ホントにこれが  
最後だからね…

そう これが最後のはずだった

ふたりの手は  
長い時間の中のほんの二握り

時が経てば数多の思い出話の  
ひとつたなるようなこと

けれど本当は終わらない  
悪夢の始まりに  
過ぎなかったと

ん？

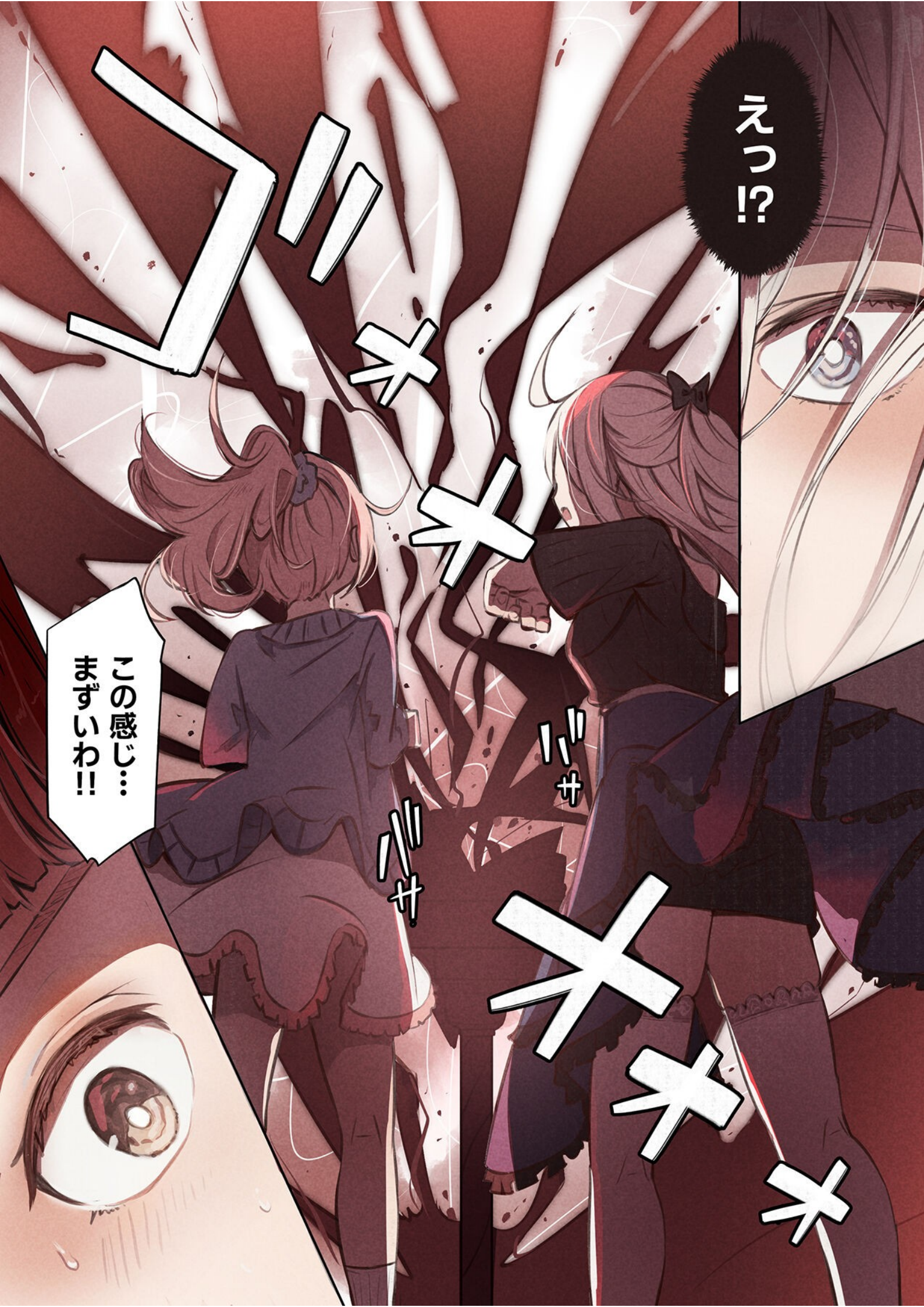
この時は知る由もありませんでした…

えっ!?

この感じ…  
まずいわ!!

バ  
#

バ  
#



この男は…



ゴ  
ク  
ク  
ク

何度も夢の中に  
現れていた

ク  
ク  
ク  
ク



余を眠りから  
覚したのはお前たちか

カシッ

カシッ

カシッ

愚かな者よ…

7

ふたりには余の覚醒の  
宴に付き合ってもらおうか

まづい…わ

意識が…遠のく…

!!

クッ  
サッ

ド  
スッ

ド  
サッ

サ  
ッ



お前のような  
青臭い女の身体には  
興味はないが涙の味は  
悪くはないな

身体はせいぜい  
そいつに可愛がって  
もらえばいいさ



あ

びん

あ

あ

あ

あ



実に健気だ  
だが…

まだ諦めてはいないと  
意思を感じる瞳だ



夢の中から  
お前たちを見ていたよ



諦めよ



無駄な抗いだ

お前たちが  
戯れていた触手が  
何だったか教えてやろう

あれは女の体液をすすり  
私の肉体を再現する  
力を集めていたに過ぎん

膣の中に出されると  
活力が沸いてきただろう？

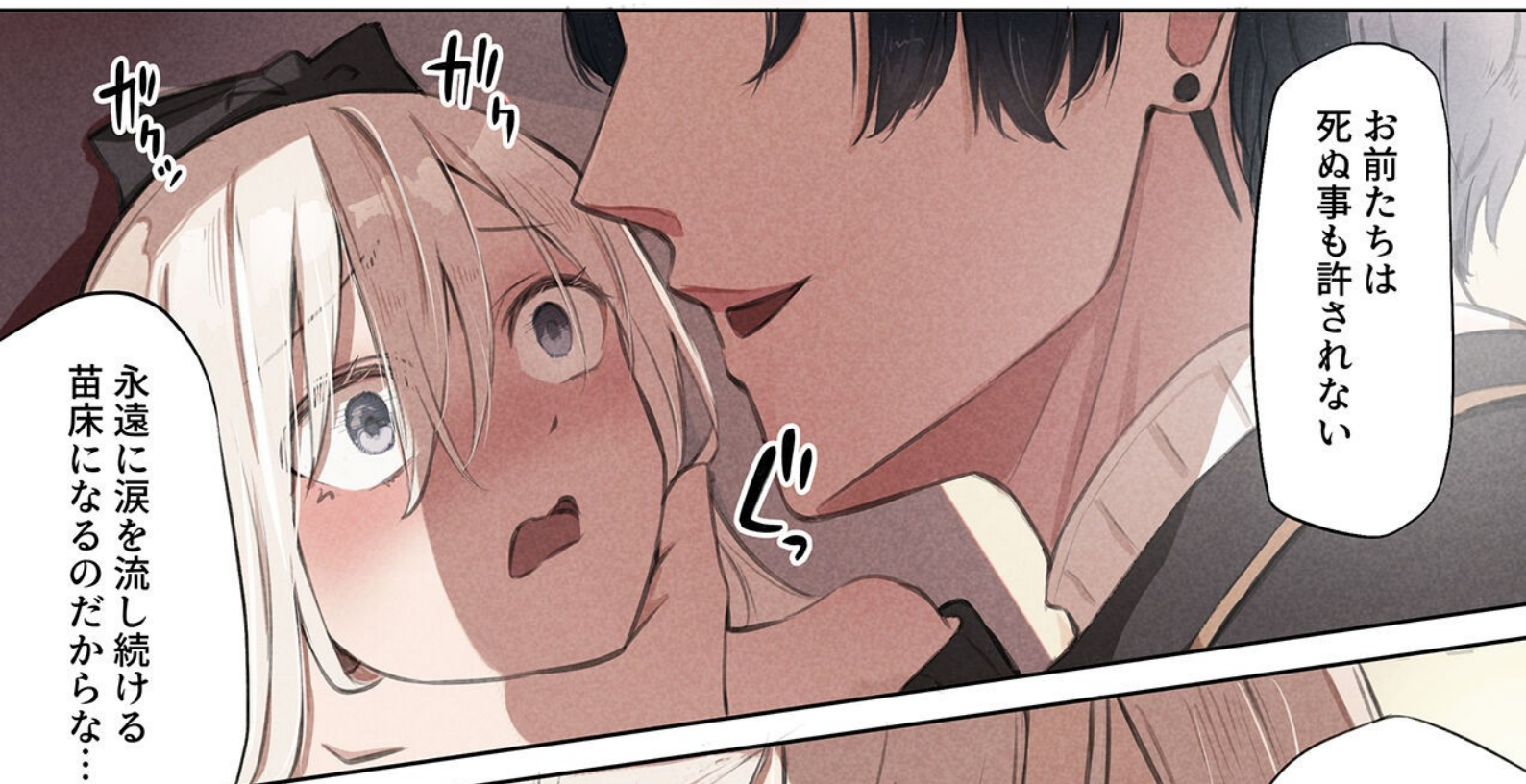
やつの体液は  
快樂への依存と  
人を活性化させる  
養分が含まれている

私たちがやっていたことが

パンドラの箱を  
開いてしまった…？

なぜだかわかるか？

どうして触  
手だ…！?

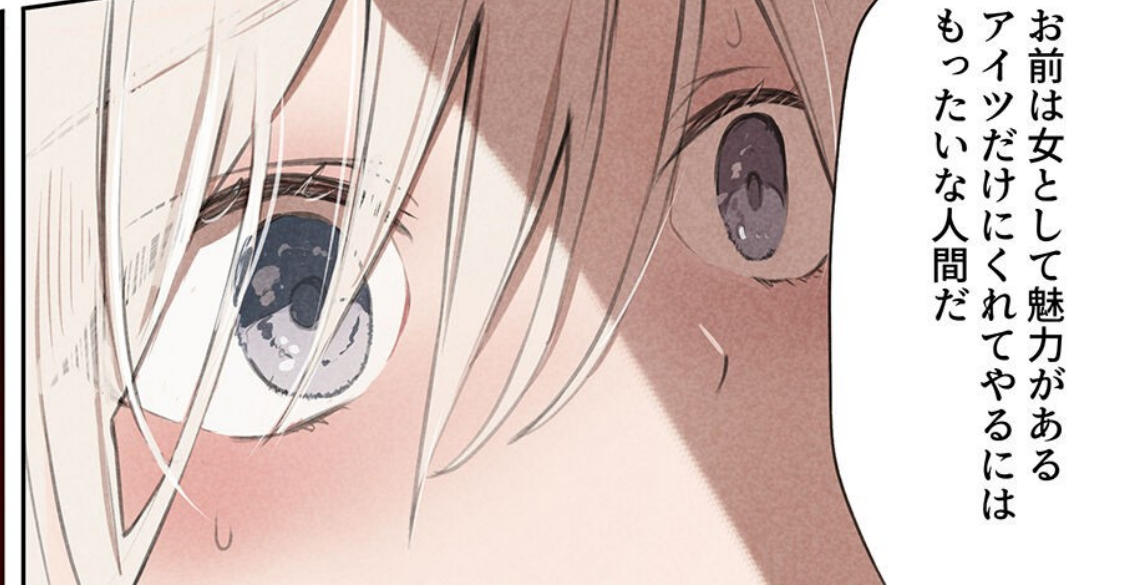


お前たちは  
死ぬ事も許されない

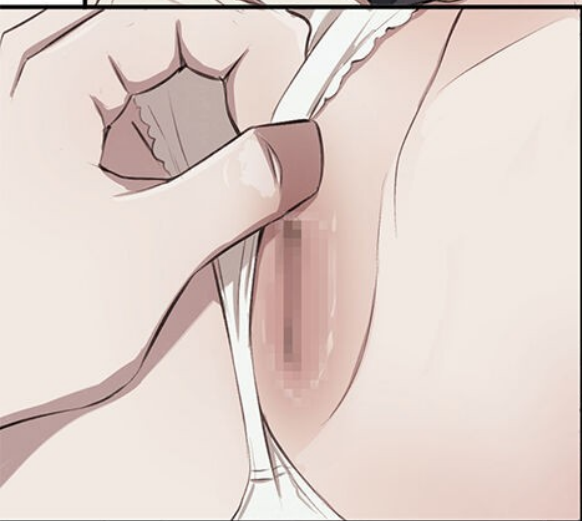
永遠に涙を流し続ける  
苗床になるのだからな…



意味がわかるか？  
人間の女



お前は女として魅力がある  
アイツだけにくれてやるには  
もったいな人間だ



第五章 悪夢

どうした  
すでに濡れているぞ？

触手ばかりでは  
退屈だろうからな  
私が相手をしよう

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

する

する

バサッ

抵抗するか？  
無駄なことだ

く

やだっ...



そろそろ  
自分の運命を  
受け入れたか？

快楽に身を任せろ  
その方が楽になるぞ

タッ

タッ

タッ

諦め…ない

あなたは一度  
封じられている

必ず隙があるはず…

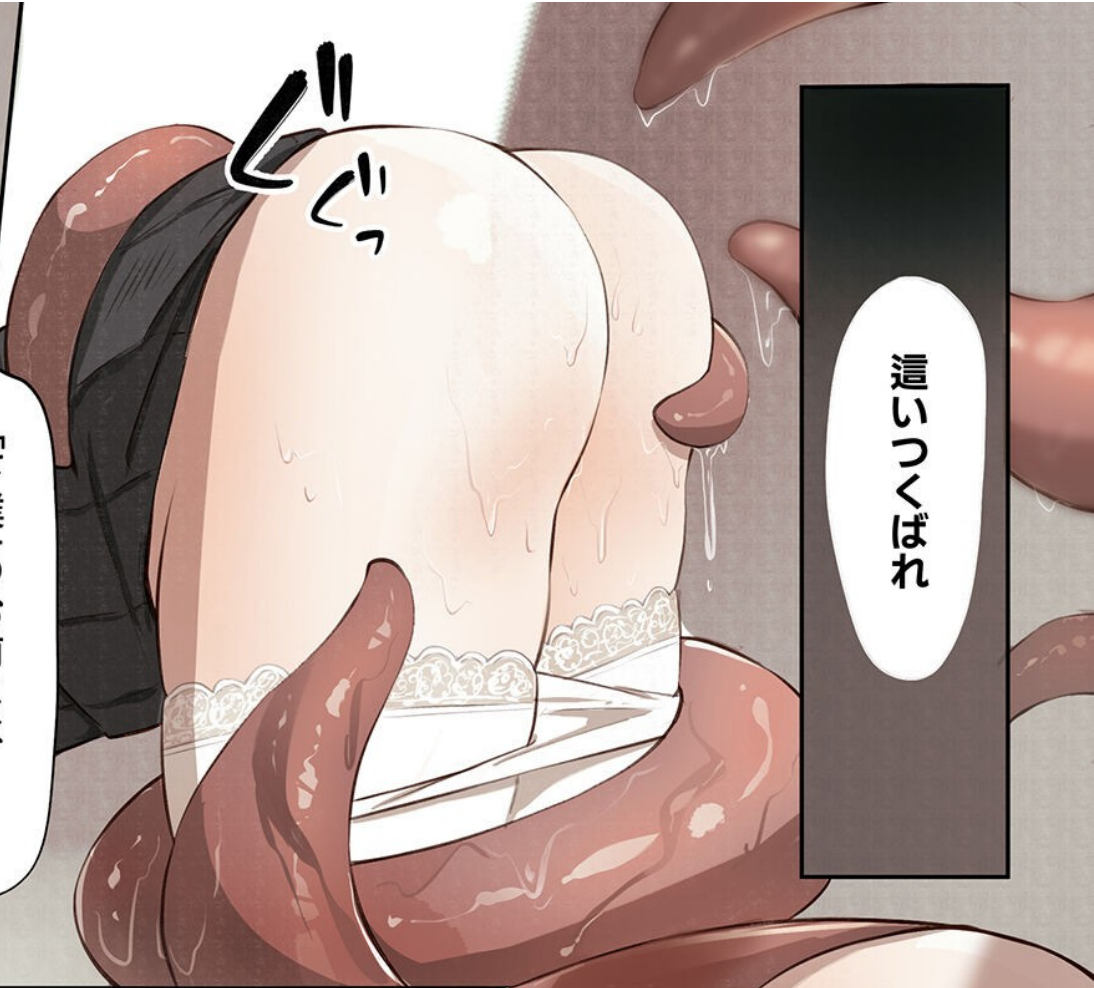
そうか…

そう思うなら  
なんとかしてみるんだな

タッ



「下僕」のお前には  
それが相応しい格好だ



這うしんぼね



我が直接お前の立場を  
わからせてやろう





はあ

はあ



か

ひ

ひ



こっちを向け  
その涙が乾かぬ  
うちにな

中々に楽しめたぞ

ヒ  
ヒ

ト  
ロ  
オ



私はわかつている  
これで終わりではないことを  
私たちはあの男のために  
生きて、飼われ、犯されることを...

ふん  
腰を抜かしたか  
所詮は人間の  
女だな



この体勢のまま  
耐えなきゃ…

身体を地面に落としたら

触手に全身を  
滅茶苦茶にされる…





さあ  
我的食事の時間だ

頭(こうべ)を上げよ  
家畜ども

私たちに この陵辱から抜け出す術はない…

